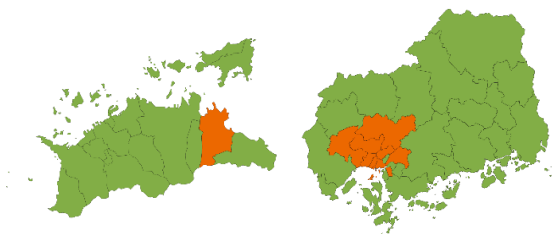


## 香川県さぬき市および広島県広島市

### 瀬戸内カレッジ 2022



#### 【活動の基本情報】

参加学生数：12名

(1年生：4名、2年生：8名)

活動期間：2022年7月～

担当教員：木川剛志、八島雄士、金岡純代

#### 1. 活動実施の経緯

JR西日本とJR四国、瀬戸内地域の自治体と大学が協力して行う産官学連携事業「瀬戸内カレッジ」に参加した。各地域の課題を踏まえて、若者視点を活用した地域活性化、旅行需要の喚起、学生の成長機会の創出を目指すプロジェクトである。和歌山大学が担当した自治体は広島県広島市と香川県さぬき市だった。この企画はこれまでも継続的に和歌山大学観光学部として参加してきたものである。

#### 2. 活動の内容

参加学生は、瀬戸内地域の自治体からプレゼンを受け、その中から希望を提出することになり、他の大学と重なった場合は抽選となる。今年は抽選には外れたため事前の希望とはならなかったが、参加することで、それぞれの地域の魅力を感じることができた。

和歌山大学は香川県さぬき市と広島県広島市の二班に分かれた。それぞれの自治体と交流し、事前学習を始め、その成果を2022年7月16日に他大学との合同で開催されたキックオフミーティングで発表した。その後、さぬき班は9月16日～18日と9月26日～28日、広島班は9月21日～23日、9月27日～29日と前後半日程に分けて現地実習を行った。その成果は、10月23日に中間報告会がオンラインで実施され、12月21日には大阪グランビアホテルにて成果報告会が行われた。

#### 3. 活動を通じて

和歌山大学観光学部の二つのチームは受賞することはできなかったが、それぞれの自治体と一緒にコンテストに参加することで、地域の課題、それに対する解決に向けての提案の経験を得ることができた。瀬戸内カレッジは毎年多くの学生から参加の要望のあるプロジェクトである。それは観光学部が地域再生を学ぶことを一つのミッションとしていることから、学生たちがやりたいこと、を実現できるものだからである。この学びを通じて、さらなる企画力、プレゼン能力を高めていきたい。

#### 4. 成果ポスター

2022年度

# JR 瀬戸内カレッジ

香川県さぬき市・広島県広島市

**瀬戸内カレッジとは**

瀬戸内カレッジとは、Jre西日本と瀬戸内の自治体、大学が連携し、若者視点を活用した瀬戸内地域活性化や旅行需要の喚起、学生の成長機会の創出を目指す産官学のプロジェクトです。これまで北陸、南九州、新潟エリア等と内容に合わせて毎年実施してきました。一連の取組みを通して、参加学生と地元協力者の間で交流が生まれ、地域と連携強化の促進、大学生による若者目線の旅行プランや地元の課題解決に向けたアイデアの提案、および自主的ゆ地元PRを展開してきました。今年度は昨年度と同様、瀬戸内エリアを対象とし、「瀬戸内カレッジ」を実施しています。

**さぬき市**



ようこそ四国へ!

**①さぬき市の概要**

さぬき市は香川県東部に位置し、人口は県内6位の都市です。主な観光資源として、津田の松原、日本トルファンセンター、お遍路さんで有名な四国88ヶ所の志度寺・長尾寺・大窪寺があります。海や山といった自然の豊かさを活かしたアクティビティの他にも、お遍路に関連する寺が存在するなど歴史も感じることができます。

**②現状の課題**

さぬき市の課題として2つ挙げられます。1つ目は通過型観光であることです。宿泊施設の少なさを地理的要因が原因で、関西方面からの旅行客がさぬき市ではなく高松や松山へと流れてしまっているのが現状です。2つ目はSNSでの情報発信の弱さです。市の公式SNSがLINEのみの現状から、情報発信の強化が求められています。

**③自分達が提案した内容**

市内にある眺望の良い大串自然公園でフォトスポットや貸出自転車などのアクティビティを増やすこと、野外劇場「シアトロフ」で映画鑑賞会の開催、志度町でのランタンフェスの開催を提案しました。また情報発信の面からINSTAGRAM投稿コンテストを考え、共通ハッシュタグやテーマを設定するなど、より拡散されやすい工夫をしました。

**広島市**



**①広島市の概要**

広島市は広島県の西部に位置し、中国・四国地方で最大の人口を有する中枢都市です。また広島市は国際平和都市に指定されており、原爆ドーム等の平和に関連したスポットには国内外問わず、多くの観光客が訪れています。そのほかにも歴史、自然、食など様々な要素が詰まったスポットがある魅力あふれる都市です。

**②広島市の課題**

広島市の課題は、広島市＝平和というイメージがあまりにも根付いてしまっている点です。世界初の被爆都市であることから、平和を発信する都市としての魅力的なイメージを持つことは必然ですが、その影響から広島市には硬いイメージを持たれている方が多いです。そのため広島市に対する新たなイメージの検討が必要です。

**③自分達が提案した内容**

私たちは「大人の修学旅行」という提案をしました。修学旅行に必要な要素の一つとして学びがあることを定義し「国際平和都市広島」を新しい視点で見つめ、広島市を通してSDGSについて学べる旅を提案しました。広島市の観光スポットごとにSDGSポイントを決め、旅行会社の企画力を活かす等の工夫を施しました。

## 合同報告会 当日の様子

広島県広島市および香川県さぬき市

テーマ：瀬戸内カレッジ 2022

今年度の瀬戸内カレッジへの参加は、広島市班とさぬき市班の 2 チームであった。今年度の LPP 参加募集でメンバーが確定して以降、それぞれの班で活動が続けてきた。瀬戸内カレッジの大きな特徴として、和歌山大学観光学部の LPP プロジェクトである前に、他大学と共同で行うコンペ形式のプロジェクトであることが挙げられる。そのため、12 月に行われた瀬戸内カレッジの最終報告会では、広島市班とさぬき市班は別のチームとして、各々の発表を行った。

しかし、2 月に行われた和歌山大学での LPP の合同成果報告会では瀬戸内カレッジとして一括りにされ、実質 2 班の活動報告でありながら、与えられた時間は他の LPP と同じ 5 分であり、内容を充実させることよりもまず制限時間に納めることを最優先にしなければならなかった。結果として、なんとか間に合わせることはできたが、自分たちの活動内容を十分に伝えることができたとは言い難い。加えて、時間に間に合わせるために説明が常に 1.5 倍速のようになってしまい、それでいて残り 5 秒ほどだったので、時間の余裕は全くと言っていいほどなく、本当に伝えたかったところが伝わったのかも怪しいところである。ただ発表形式は良かったため、最後の 1 班だけの発表を瀬戸内カレッジに割り振ってみても面白いと感じた。

